

# 平成26年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果分析（小学校：国語）

## 1 結果のポイント

- ・全国平均との比較では、国語Aは+1.9ポイント（昨年度：-2.0ポイント）、国語Bは+3.4ポイント（昨年度：-2.4ポイント）となり、いずれも全国平均を上回った。
- ・県平均との比較では、国語Aは+1.2ポイント（昨年度：-1.6ポイント）、国語Bは+1.7ポイント（昨年度：-1.7ポイント）となり、いずれも県平均を上回った。
- ・領域別では、国語Bの「話すこと・聞くこと」以外は全ての領域で全国平均を上回った。

## 2 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（漢字）

### ①出題の内容とねらい

学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみる問題である。《A問題①》

### ②解答状況

児童数の割合（%）

| 解答類型                          | 国東市         | 全国   |
|-------------------------------|-------------|------|
| <b>漢字を読む(道路の標識を見る)</b>        |             |      |
| ・「ひょうしき」と正答しているもの             | <b>88.8</b> | 91.7 |
| ・「ひょう」と解答しているが、「しき」と解答していないもの | 7.3         | 4.3  |
| ・「ひょう」と解答していないが、「しき」と解答している   | 0.5         | 1.0  |
| ・上記以外の解答                      | 1.9         | 1.4  |
| ・無解答                          | 1.5         | 1.7  |
| <b>漢字を読む(街灯がつく)</b>           |             |      |
| ・「がいとう」と正答しているもの              | <b>86.4</b> | 87.0 |
| ・「がい」と解答しているが、「とう」と解答していないもの  | 0.0         | 0.2  |
| ・「がい」と解答していないが、「とう」と解答しているもの  | 6.8         | 8.4  |
| ・上記以外の解答                      | 2.4         | 1.8  |
| ・無解答                          | 4.4         | 2.5  |
| <b>漢字を書く(料理をのせたさらを運ぶ)</b>     |             |      |
| ・「皿」と解答しているもの                 | <b>96.6</b> | 97.8 |
| ・上記以外の解答                      | 2.9         | 1.6  |
| ・無解答                          | 0.5         | 0.6  |
| <b>漢字を書く(勝利をいいう)</b>          |             |      |
| ・「祝(う)」と解答しているもの              | <b>51.0</b> | 59.3 |
| ・上記以外の解答                      | 46.1        | 33.9 |
| ・無解答                          | 2.9         | 6.8  |

### ③指導の改善事項

漢字を文脈に合わせて正しく読んだり書いたりする

- 漢字を読むことの指導においては、正しい発音を理解し、その読み仮名や送り仮名を表記することができるように指導することが重要である。また、漢字を書くことの指導においては、点画の数やとめ、はね、はらいなど、間違えやすいところを特に注意し、正しく書くことができるようにするとともに、文脈に合わせて適切に使えるように指導することが大切である。

実生活において、習得した漢字を適切に使う

- 習得した漢字の音訓、部首、点画などについて、同音異義語や類似した字形などと比較しながら、正しい書き方を日常的に確認するような習慣をつけることが大切である。その上で、文や文章の中で正しく使用しているかどうかを自分で評価し、漢字を含む語彙の拡充を図るように指導することが重要である。

## (2) 書くこと

### ①出題の内容とねらい

「良太は、さみしい気持ちでいっぱいになりました。」を「いつの間にか灰色の雲が広がり、公園はだんだんと暗くなってきました。」に変える内容について選択し、情景描写の効果を捉えることができるかどうかをみる問題である。《A問題3》

### ②解答状況

児童数の割合 (%)

| 解 答 類 型                 | 国東市  | 全 国  |
|-------------------------|------|------|
| ・ 1 「良太の顔の表情」と解答しているもの  | 16.5 | 16.7 |
| ・ 2 「良太の心の中の声」と解答しているもの | 18.9 | 14.0 |
| ・ 3 「良太の周りの風景」と解答しているもの | 55.8 | 58.7 |
| ・ 4 「良太の行動」と解答しているもの    | 8.7  | 10.4 |

正答率は55.8%で、全国平均正答率58.7%に届いていない。18.9%の児童が「良太の心の中の声」、16.5%の児童が「良太の顔の表情」と解答している。

「小さな声でつぶやきました」という言葉から、暗い表情を想像し、それを「顔の表情」と誤って答えた人や、二人の会話の[ ]の直前にある「気持ち」という言葉と「心の中の声」とが結びついて誤って答えた人がいるのではないかと考えられる。

### ③指導の改善事項

読むこととの関連を図り、物語を創作する

- 物語を創作する上で、物語の表現の特徴とその効果について捉えることは、重要である。そのためには、物語などの文学的な文章を読むことの授業において、描写の工夫（行動や表情、会話（内言）、風景など）の効果を理解することができるように指導することが大切である。その際、登場人物の心情などについて、直接的に描写されているものだけでなく、暗示的に表現されているものも捉えることができるように指導することが重要である。

## (3) 読むこと

### ①出題の内容とねらい

物語の登場人物「よし子」、「ジョール」、「オデット」の相互関係を捉えることができるかどうかをみる問題である。《A問題5》

### ②解答状況

児童数の割合 (%)

| 解 答 類 型                     | 国東市  | 全 国  |
|-----------------------------|------|------|
| ・ア「オデット」 イ「よし子」 ウ「ジョール」【正答】 | 63.1 | 65.3 |
| ・ウが違う                       | 0.5  | 0.8  |
| ・イが違う                       | 0.5  | 0.6  |
| ・アが違う                       | 1.5  | 1.8  |
| ・イとウが違う                     | 5.8  | 7.1  |
| ・アとウが違う                     | 6.8  | 5.2  |
| ・アとイが違う                     | 7.8  | 8.6  |
| ・上記以外の解答                    | 13.6 | 10.0 |
| ・無解答                        | 0.5  | 0.5  |

物語の登場人物の相互関係を捉えることに課題がある。フランス人の兄ジョールと妹オデットの状況やよし子を含む三者の関係についての的確に捉えることができていない。

### ③指導の改善事項

登場人物の人物像や相互関係を捉える

- 物語などの文学的な文章は、登場人物の人物像を捉え、相互関係を明確にしながらか読むことが重要である。そのためには、中心人物を押さえ、その人物と周囲の主な登場人物について、行動や会話文、情景描写などに着目しながら、それぞれの人物像がわかる言葉をメモに書き出し、整理するなどの指導が考えられる。その際、その中心人物を取り巻く登場人物がその中心人物をどのように見ているのか、物語の進行に伴ってどのように変化していくのかに着目できるようにすることが大切である。

具体的な指導としては、「家族」や「同級生」のように、物語を設定する上での実体的な関係や、「仲間」や「好敵手」のような構造的な関係について、カードを並べ換えたり、関係図に表したりすることが考えられる。

## (4) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### ①出題の内容とねらい

国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解することができるかどうかをみる問題である。

《A問題8》

### ②解答状況

| 解 答 類 型           | 国東市  | 全 国  |
|-------------------|------|------|
| 「計る」と解答しているもの     | 11.7 | 10.3 |
| 「測る」と解答しているもの     | 8.3  | 7.7  |
| 「量る」と解答しているもの     | 10.2 | 5.0  |
| 「図る」と解答しているもの【正答】 | 69.9 | 74.3 |
| 上記以外の解答           | 0.0  | 0.1  |
| 無解答               | 0.0  | 2.7  |

「計る」と答えた人は、文章の一部にある「運動する機会」を運動する時間と誤って捉えたものと考えられる。また、「測る」は、体育の授業という言葉から体力測定などの言葉を連想して誤ったものと考えられる。

### ③指導の改善事項

国語辞典を使って調べる習慣をつける

- 国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても、国語辞典を使って言葉の意味や使い方などを調べる習慣をつけ、言葉についての関心を高めることが重要である。そのためには、辞書の仕組みや使い方など国語辞典の特徴を理解することが大切である。

具体的な指導としては、実際に調べた言葉に付箋を貼ったり、他の辞書の用例を付け加えたりして、自分なりに使いやすい辞書へと手を加えていくことが大切である。とりわけ、いつでも国語辞典を手にとることができるような言語環境を整えておく必要がある。

言葉の意味を理解し、適切に使い分ける

- 文脈に応じて適切な言葉の使い分けができるように多くの用例を知り、語感や言葉の使い方を意識させるようにすることが大切である。

(5) 話すこと・聞くこと

①出題の内容とねらい

討論会での大野さんの発言に対する質問または意見を、大野さんの発言を引用し、100字以内にまとめて書くことで、立場を明確にして、質問や意見を述べることができるかどうかをみる問題である。《B問題1(3)》

②解答状況

【正答の条件】

- ①手書きの立場に立って質問、意見のどちらかを選択した上で、その内容を書いている。
- ②大野さん【2】の発言の中の言葉を「 」を使い、25字以内で引用して書いている。
- ③書き出しの文に続けて、80字以上、100字以内で書いている。

【正答例】

・(大野さんの発言に対して) 質問 (があります。)  
「去年の卒業文集には読みにくいところがありました」と言いましたが、どの部分が読みにくかったですか。また、文字以外に読みにくいところはありましたか。(94字)

・(大野さんの発言に対して) 意見 (があります。)  
パソコンであれば、「文字の形や大きさがそろおう」と言いましたが、手書きでも原こう用紙のますに合わせていねいに書けば、読みやすい文集になると思います。(94字)

| 解 答 類 型  | 国東市  | 全国   |
|--|------|------|
| 条件①②③を満たしているもの <b>【正答】</b>                         | 21.8 | 28.3 |
| 条件①②は満たしているが、条件③は満たしていないもの                         | 1.0  | 2.4  |
| 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの<br>*条件③を満たしているかどうかは不問とする | 68.0 | 55.7 |
| 条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの<br>*条件③を満たしているかどうかは不問とする | 1.0  | 0.7  |
| 上記以外の解答  | 5.3  | 8.0  |
| 無解答  | 2.9  | 5.0  |

相手の発言を引用して質問や意見を述べることに課題があり、指導の充実が求められる。条件①は満たしているが、条件②を満たしていないものが68.0%と多い。

誤答例として、「 」を使って書いているものの、その内容が大野さんの発言の言葉を引用して書くことができていない場合や、大野さんの発言した言葉を書き抜いているものの、「 」を使って引用して書いていない場合がある。

### ③指導の改善事項

互いの立場や意見を踏まえた上で、質問や意見を述べる

- 討論においては、課題解決のために互いの立場や意見を踏まえた上で、質問や意見を述べることが重要である。そのためには、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えとの共通点や相違点を明確にして聞くことが大切である。

具体的な指導としては、話し手の発言内容の中から、中心となる考え、理由や根拠などを、短い言葉で要約してメモなどに書き留めるような指導が有効である。

- 引用することは、自分の考えの根拠を明確にしたり、具体的な例を示したりする際に、本や文章、話の内容などから必要な語句や文を抜き出さして、自分の表現に取り入れることである。

具体的な指導としては、原文や話の内容を正確に引用することや、引用する部分と自分の考えとの関係などを明確にすることなどが大切である。また、書く際には、引用する部分を「 」かぎで括ることや、引用した文章等の出典について明記すること、引用する部分が適切な量になることなどについて、具体的に指導することが大切である。

## (6) 書くこと・読むこと

### ①出題の内容とねらい

付箋の内容を関係づけて、野口さんのまとめを書くことで、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係づけながらまとめて書くことができるかどうかをみる問題である。

《B問題② (二)》

### ②解答状況

#### 【正答の条件】

- ①ふせん【3】の内容について[ ]部分の二文を一文にし、以下の内容を取り上げている。
  - ◆水場や食べ物を探することができる。(いずれか一方のみを取り上げているものも含む)
  - ◆仲間を見つけることができる。
- ②ふせん【4】の内容について「例えば」という言葉を使って書いている。
- ③書き出しの言葉に続けて、100字以上、120字以内で書いている。

| 解 答 類 型  | 国東市  | 全国   |
|--|------|------|
| 条件①②③を満たしているもの 【正答】                                | 24.8 | 26.9 |
| 条件①②は満たしているが、条件③は満たしていないもの                         | 2.4  | 1.5  |
| 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの<br>*条件③を満たしているかどうかは不問とする | 10.2 | 11.6 |
| 条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの<br>*条件③を満たしているかどうかは不問とする | 17.5 | 12.0 |
| 上記以外の解答  | 41.3 | 40.6 |
| 無解答  | 3.9  | 7.4  |

わかったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係づけながらまとめて書くことに課題があり、指導の充実が求められる。

解答に必要な条件となる「二文を一文にすること」及び「【例えば】という言葉を使って書く」を満たしていないものが多い。

### ③指導の改善事項

わかったことや疑問に思ったことを、条件に応じてまとめた文章にして書く

- 必要な情報を取り出し、分類したり関係づけたりした上で全体を通してわかったことや考えたことを一定のまとめた文章にして書くことが重要である。その際、構成や記述などについて、条件を示すことは有効である。具体的な指導の仕方について示す。

## 3 指導の改善のポイント

### (1) 単元を貫く言語活動を設定した授業づくり

- 国語科は付けたい力を教えるのではなく、言語活動を通して、指導事項を指導し、付けたい力をつけていく教科である。よって、活用する力を高めるためには、単元を貫く言語活動を設定した授業実践の一層の充実が必要である。
- 「付けたい力（指導事項）」を明確にし、それを単元の指導過程のどこで付けるのか、本時では、具体的にどのような状況であれば「おおむね満足できる」と判断するのかといったことを明らかにしておく。

### (2) 多様な図書資料等を活用する授業の推進

- 必要な情報を素早く見つける読み方や、必要な部分のみを詳細に分析する読み方等を経験させるような指導が大事である。
- 目的に応じた読み方を身につけさせるために、リーフレット、広告、ちらし、パンフレット、説明書など多様な資料を扱うような活動の充実を図る。
- 漢字の読みや語彙量に課題が見られる児童、まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な児童の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。（不読者への取り組みが必要）

### (3) 「話すこと・聞くこと」について

- 話し合い、スピーチや発表等の場面で、話を聞きながら話の中心や相手と自分の意見の相違点と共通点などをメモしてまとめる学習活動を行う。（聞く際のメモの意義を考えさせる）

### (4) 「読むこと」について

- 文学的な文章では、「時・場所」「登場人物」「中心人物の変化」「語り手」「出来事」「大きく変わったこと」「三部構成」（はじめ・中・おわり）等に着目し、作品の大筋をイメージさせる指導の充実を図る。
- 説明的な文章では、「三部構成」「問いと答えの関係」「要点」「要旨（主張）」などの論理的な読み方の習得や活用を図る。

(5) 「書くこと」について

- 情報を活用し、条件に応じて自分の意見や考えを書く活動の充実を図る。
- 記述する力を高めるためには、「書くこと」の指導だけでなく、「話す聞く」「読むこと」等での活動と関連させるようにすることが重要である。また、考えを深めるとり広げたりする「交流」の場面を単元の中に効果的に位置づける。

(例)・文章を下学年の人にわかるように説明する。

- ・書かれていることを図や表にまとめて、それを用いて人に説明する。
- ・一つの文章を様々に目的を変えたり、字数を変えたりして要約する。

(6) その他、学校全体で取り組むことについて

- 漢字や語句、文法、表現技法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。国語科だけでなく、各教科のノートや学級日誌等、様々な場面での指導が大事である。
- 定着を図るため家庭学習の充実を図る。
- 「国語科データベース」や県「フォローアップワークシート」、くにさき地区研作成「フォローアップシート」等を効果的に活用する。

【参考・引用】

平成26年度全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省・国立教育政策研究所）